

例会報告 Rotary



ロータリー情報委員会

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 下屋勝比古
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 塚本 直人
- 会報委員 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 挾土 貞吉

世界に希望を生み出そう

<会長の時間>

大相撲九州場所が始まりました。期待の十両「大の里」は、昨日まで5連勝と期待通りに白星を重ねています。兄弟子の「友風」は右ひざのけがから4年かけて復帰して幕の内でも2勝2敗と頑張っています。友風のけがというのは西前頭3枚目だった2019年九州場所2日目の取組に敗れて土俵下に転落した際、右膝のじん帯断裂、大腿（だいたい）骨の骨折などの大ケガを負いました。友風は4度の手術と長期のリハビリを経て、21年春場所で序二段に復帰し今場所で23場所ぶりの幕内復帰を果たしていた。夏場所前に二所ノ関部屋の稽古を見に行った時に手術の後を見せてもらいましたが、足関節が反れない（背屈ができない）感覚はほとんどない状態でした。よくそれで激しい相撲が取れるな？と思う状態でしたが2日目に宝富士を押し出して初日を出し、2019年秋場所千秋楽以来1513日ぶりの幕内勝利を挙げました。NHKテレビ中継のインタビューでは、万感の表情を浮かべ「いい相撲だった」と自賛。引き揚げる際に部屋付きの中村親方（元関脇嘉風）に「おかえりなさい」と声をかけられよう。若隆景も現在前十字靭帯断裂の手術をして、幕下から復帰して頑張っています。

日曜日にブラックブルズは沖縄でテラスホテルズと対戦して、今シーズン2勝目を挙げましたが、その時も目の前で相手選手が左ひざのけがをしました。後ほど左前十字靭帯断裂とのことでした。ブルズでも16人中9名が靭帯断裂を経験しています。現在はほとんどが手術をしますが、復帰まで昔は1年でしたが、最近では6~9か月で復帰してきます。受傷直後から復帰まで長い道なのですが復帰に向けてしっかりサポートするのが私の役目です。スポーツの種目によって怪我をする場所や程度は違うので興味深いことではあるのですが、そんな時に駆けつけて適切な処置や搬送をすることもトレーナーの仕事です。

ローイングでは、大きなけがは起きませんが座って行うために腰痛が多いです。荒い呼吸をしながらオールを使うので肋骨が疲労骨折します。ハンドでは見られない怪我です。怪我はスポーツにはつきものといわれます。生身の人間が全力で力を発揮し合うスポーツにおいては、怪我をしないのも一流選手の条件ですが何十億円もの契約金が動く野球などの選手においては、怪我をしてもいかに早く復帰できるかが優秀なトレーナーの役割です。

<幹事報告>

◎ガバナーより

・「Eテラスロータリークラブ」へのお誘い

<受贈誌>

高山RC（会報）、高山中央RC（会報）、米山記念奨学会（ハイライトよねやま vol284）

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
23名	-	23名	36名	67.65%

<本日のプログラム> ロータリー情報委員会

ロータリー情報委員長 遠藤 隆浩
本日は高山屋台保存会 会計担当理事の北村直久様にお越し頂き、高山祭についてお話し頂きます。

北村様は中京大学法学部法律学科卒業後、名古屋の会計事務所に勤めた後高更され、建設会社等で約20年間勤務され退職。令和5年7月に「行政書士北村直久事務所」を開業されました。実家が上二之町で、幼少期から麒麟臺に携われ、平成30年より、高山屋台保存会理事、令和4年からは会計担当理事となり現在に至ります。北村様、よろしくお願ひします。



高山屋台保存会

会計担当理事
行政書士北村直久事務所
所長 北村 直久 様

高山祭は、正式には春祭は「山王祭（さんのうまつり）」、秋祭は「八幡祭（はちまんまつり）」となります。主宰する神社も違い、山王祭は日枝神社、八幡祭は松山八幡宮です。祭の区域は、安川通りを挟んで南側（上町（かみちょう））が山王祭、北側（下町（しもちょう））が八幡祭です。この全く違う2つの祭を総称したものが「高山祭」です。

高山祭について、軽く歴史を紐解いてみると、高山祭の起源は元禄年間に始まります。その頃には屋臺はありませんでした。その後、1700年代に入って祭屋臺が登場します。この屋臺は絵巻などを見る限り、彫刻や金具などもなく、幕で覆われただけの比較的質素な、いわゆる江戸型の屋臺であったようです。それが1800年代の文化文政年代に入り、屋臺組にいた「旦那衆」が金に糸目をつけずに贅沢の限りを尽くした屋臺が現存する屋臺の基礎となっております。屋臺の形もそれまでの江戸型から京都の祇園型に進化していきました。それが現存する屋臺に繋がっていきます。こんな高山祭の屋臺ですが、全国的に見ても素晴らしい屋臺であることは言うまでもありません。全国に多くある祭屋臺の中で国



例会報告

の重要有形民俗文化財を取っている祭屋臺は、日本でたったの5つです。ここで文化財指定の重要な要素として、昔造られたものをそのまま維持しているという点です。例えば祇園祭で最近復元された大船鉾や鷹山などは指定されておりません。指定権者である文化庁は、今後これ以上の祭屋臺の指定は国ではしない方針ということを知っています。それだけ指定が厳しいものであるということを知ると、いかに先人の保存や維持の精神が今の時代になっても厳然と生き続けており、これを繋いでいくのにはいかに苦労したかということが、現存している屋臺の素晴らしさから見て取れます。現在その屋臺を維持、保存しているのは各屋臺組となりますが、その一端を担い、全国組織の窓口になっている「高山屋台保存会」に触れておきます。

高山屋台保存会は昭和26年に発足した団体です。高山「祭」保存会としていないのは高山祭以外の屋臺も含まれるからです。保存会は、屋臺とそれに伴う伝承行事の保存維持を主な目的としております。そして高山屋台保存会は、主に「全国山・鉾・屋台保存連合会」の窓口的な役割も果たしております。この連合会は高山をはじめ、国の重要有形民俗文化財を取得した5つの祭が発起人となって昭和54年にできた会で、初代の会長は高山から出ております。そして、平成28年に、「高山祭の屋台行事」を含む「山・鉾・屋台行事」のユネスコ世界無形文化遺産の登録が決定しました。この取組にも高山屋台保存会が高山市・連合会と連携して働きかけを行っております。

今年の全国山・鉾・屋台保存連合会の総会の中で文化庁の担当者が、今後は、保存、維持だけではなく、文化財の「活用」もしていく必要があるということを知り、初めて言及されました。これはすなわち、祭屋臺の修理に対する費用を、ある程度地元で捻出できるように体制を整えてくれ、ということに他ならないと保存会では考えております。このような状況の下で、文化財を「活用」していくには、屋臺組の現状と屋臺及び屋臺蔵の権利関係について整備していく必要があります。このような状況で取り組んでいることが屋臺組を「認可地縁団体」として屋臺組を法人化していく、ということになります。ここで問題になっていくのが相続に絡んだ問題です。屋臺蔵の登記名義がその人になっているということで、これは相続財産に該当するのか？ということが屋臺組でも現実問題として起こっています。また、屋臺蔵の土地の共有が組によっては30人以上となり、そのほとんどが現在ご存命ではないことで、関係が複雑化してきております。保存会としても市役所と連携して進めていくことになっております。

高山祭は江戸時代から連綿と続いている伝統ある祭です。それには一切の妥協を許さず、頑なに守り抜いた先人の努力があります。他の地域の祭に目を向けて、高山祭にとってプラスになるだろうということは積極的に取り入れていくことはもちろん重要です。祭に携わる人の意識改革、保存すべき資料のデジタルアーカイブ化、保存会の組織を強固にしていくこと、すべて重要です。一方で、祭事は頑なに前例を踏襲していくこと、屋臺の維持や保存をしていくことは決しておろそかにしてはいけないことでもあります。このバランス感覚をいかに保っていくかが今後の祭を担う人には必要な感覚なのではないかと思っています。

<ニコニコボックス>

●下屋 勝比古さん、田中 晶洋さん

本日はお忙しい中、高山屋台保存会 理事 北村直久様のご来訪を歓迎いたします。7月に行政相書士事務所を開設されてお忙しい中ではありますが、高山屋台について卓話楽しみにしています。本日塚本幹事は地区大会の前日行事に出席のため、田中副幹事のデビューです、次年度に向けて緊張を高めて下さい。明日の地区大会参加の方、よろしくお願いいたします。

●遠藤 隆浩さん

北村直久さんのご来訪を歓迎いたします。Bigな話をよろしくお願いたします。

●塚本 直人さん

本日は名古屋での決議審議会、基調講演に会長代理で出席のため例会は欠席し、副幹事の田中晶洋さんに仕事を託します。明日の地区大会には朝からご一緒しますので、出席者の方に会えることを楽しみにしています。また北村さんの来訪を歓迎いたします。卓話が聴けないのがとても残念です。

●大屋 尚史さん、佐藤 貴史さん、平 康弘さん

新会員オリエンテーションに参加させていただきロータリーについて下屋会長、塚本幹事、遠藤さん、堺さんより多くの事をご教示いただきました。今後も先輩方からのご指導よろしくお願申し上げます。

●岡田 賛三さん、内田 幸洋さん、斎藤 章さん、米澤 久二さん、田中 武さん、堺 和信さん、鴻野 幸泰さん、垣内 秀文さん、大村 貴之さん、杉山 和宏さん

大谷翔平がMLBで史上初となる二度目の満票MVPを受賞しました。今年のWBCで米国相手の決勝戦、対戦相手をリスペクトしながら、味方を鼓舞する試合前の名言「憧れるのをやめましょう」が忘れられません。日本人としての誇りです。翔平！元気を有難う！！



人間力を高める

第13回

堺 和信

40歳を過ぎたころから、業界団体・学校関係団体や町内会やまちづくり協議会などの様々な団体で、何故か「長」とつく役職に選ばれるようになりました。会議やボランティア活動も多く、会の代表で遠方の会議へも出席していました。また、会社でも代表となり責任も重く仕事も忙しくなり、会議や活動に出席するため、時間の使い方を考えるようになりました。頭の中で週単位・1日単位でタイムスケジュールを立て、そのタイムスケジュール通り進めるために、社員や協力会社・仕入れ先に協力を得ながら、いかに要領よくスムーズに仕事をこなしていくかということを常に考えていました。また、すぐに出来ることは実行し、やりたくないと思うことや面倒なことを優先して片づけるようにしました。私が主催する会議等は、1時間以内で終えるよう努力するなどして、このような対処方法で、忙しければ忙しいほど時間を上手く使い、充実した日々を過ごしていたと思います。今でも、忙しいときは時間をうまく使っていますが、暇な時は時間の使い方が下手な気がします。

ロータリー活動もそうですが、様々な団体でこれまで多くの方々を知り合い、助けられたり助けたりしながら、今でも心を許せる人たちがたくさんいることが、私の宝物となっています。